

埼玉会館創立100周年記念フォーラム



第1弾

「前川建築 埼玉会館の60年 since1966」

5月31日(日) 13:30 ~ 16:30 (開場13:00) 会場：第3展示室 入場無料

- 第1部 「浦和と埼玉会館 – 100年をつなぐ物語」 上映 (34分)
- 第2部 「埼玉会館と浦和、育て・育てられ (前編)」 青山 恭之
- 第3部 「エスプラナードの床デザインから始まる建築修業」 中田 準一
- 第4部 トークセッション 「前川建築 埼玉会館がつなぐ次代へのメッセージ」
橋本 功、中田 準一、青山 恭之

申込期間

4月20日(月)から 定員100名
※定員に達した時点で締め切らせていただきます。



申込みフォーム

申込方法

QRコードから申込みフォームを
ご利用ください。

問合せ

埼玉会館管理課 小澤・新井
TEL: 048-829-2471 (休館日を除く10時~19時)



埼玉会館WEBサイト
www.saf.or.jp/saitama



SAITAMA
ARTS
FOUNDATION

主催：埼玉県芸術文化振興財団(埼玉会館)
共催：埼玉県/彩の国ビジュアルプラザ

埼玉会館のご案内

〒330-8518 さいたま市浦和区高砂3-1-4
JR浦和駅(西口)より徒歩6分



駐車場(有料)は台数に限りがございますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

第2弾

「岡田信一郎と御成婚記念埼玉會館」

10月31日(土)

第3弾

「100年を遡る埼玉県と埼玉会館」

11月7日(土)

第1弾「前川建築 埼玉会館の60年^{since1966}」

第1部「浦和と埼玉会館 100年をつなぐ物語」 (2025年製作) 声の出演：園崎未恵、山口令悟

演出：高橋洋平

制作：VISTA、デジタルSKIPステーション

©2025 埼玉県／SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ

SKIPシティの映像公開ライブラリーが所蔵するアーカイブ映像を再活用して、新たな映像作品が完成しました。2026年に、初代の開館から100周年となる埼玉会館の、浦和の土地と共に紡いできた歴史と魅力を紹介します。



第2部「埼玉会館と浦和、育て・育てられ（前編）」

浦和に生きてきた建築家が、まちに溶け込む前川建築 埼玉会館とそこを訪れる人々が紡いだ60年を、じっくり見つめています。

青山 恭之（あおやま やすゆき）

1958年、旧浦和市生まれ。武蔵野美術大学大学院修了。妻の永田博子とアトリエ・リングー級建築士事務所を主宰、スペース「つきのみちくさ」を運営。武蔵野美術大学、埼玉大学等での非常勤講師を経て、現在、ものづくり大学非常勤講師。美術と街巡り・浦和実行委員会事務局長。青少年育成浦和高砂地区区会長としても活動。



第3部「エスプラナードの床デザインから始まる建築修業」

60年前の埼玉会館建設現場に立っていた元所員。エスプラナードの床タイルの配置デザインを前川國男から託された産みの苦しみと、前川國男の素顔が浮き彫りに。

中田 準一（なかた じゅんいち）

公益社団法人日本建築家協会名誉会員。1940年東京生まれ。1965年横浜国立大学工学部建築学科卒業後、前川國男建築設計事務所入所(1965～2013)。埼玉会館の外構、埼玉県立博物館、熊本県立美術館、国立国会図書館新館など企画・設計・現場監理・保全の発想から作り上げた建物の生涯に関わってきた。一方で神奈川県立音楽堂改修、東京文化会館近代化整備改修、国立国会図書館東京本館改修、岡山県庁舎警察棟(西棟)耐震改修、旧前川國男邸復元がある。他に「NPO耐震総合安全機構」を設立して初代理議長に就任。被災地の復興及び被災者への支援のため、日常生活にかかわりのある専門家とともに(一社)災害総合支援機構を立上げ現在活動している。



第4部「前川建築 埼玉会館がつなぐ次代へのメッセージ」

トークセッション：3人の登壇者と会場の皆さんで、前川建築 埼玉会館がずっとここにあり続けることで、埼玉会館の利用者だけではなく浦和のまちとの関係、埼玉県民との関係も考えてみたいと思います。

橋本 功（はしもと いさお）

株式会社 前川建築設計事務所 代表取締役所長。1945年神奈川県生まれ、1970年日本大学理工学部建築学科卒業後(株)前川國男建築設計事務所入所、1994年(株)前川建築設計事務所取締役、2000年代取締役就任、現在に至る。担当した主な作品は、福岡市美術館(1979)、埼玉県立自然史博物館(1981)(現・埼玉県立自然の博物館)、国立音楽大学講堂(1983)・国立音楽大学付属幼稚園(1984)・附属中・高等学校増築(1995)・附属小学校(2008)、千葉県東総文化会館(1991)、埼玉県児玉町総合文化会館(1995)など。この間、弘前市から熊本県までの、使われている全国の前川建築の保全改修や前川建築に関する様々な活動に精力的に係わり続けている。

